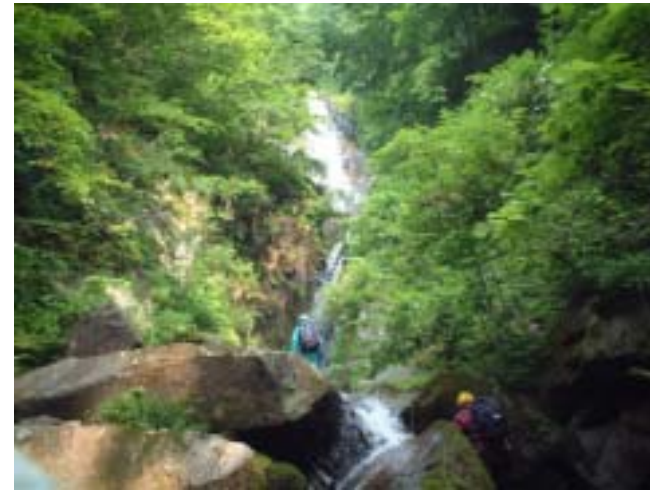




遡行開始



本流に果敢に挑戦の恵ちゃん



8m 滝の入口



行けそうで行けないナメ滝

山 域：氷ノ山・八木川源流布滝谷
場 所：兵庫県
日 時：6/7
天 候：晴れ
メンバー：石野・横小路・大塚・田代・大本



高巻き

昨年は八木川源流の不動滝を攀じったが、今日は氷ノ山最大の65mの滝、登攀距離100mの布滝に挑んだ。

心も震えるほどの深山幽滝だ！。

天を上げばブナの新緑から木漏れ日が差し込み、滝からはあふれんばかりの小さな光り輝くしずくが舞い上がり、小鳥たちの奏でる歌声で大自然がおりなす宴に酔いしれて、澄み切った空気を体中にたくわえて一步、また一步と滝を攀じ登っていく。



布滝左俣のスラブ



3段 25m



両俣の滝

氷ノ山登山口からすぐに見える雄大な滝である。早速川床に降りて逆行して行くと布滝を防御するかのようによく8mの直瀑に圧倒される、水量もまだまだ豊富で右の草付きを高巻くのだがこれが急斜面で頼りない草付きで慎重ものである。巻き終わると落差65mの布滝である・・・その名のとおり白い布を流したような美しい滝で圧感そのものである、攀じれそうであるがよく見るとほとんどが逆層になっていて途中で落ちればシャレにならない、仕方なく左のスラブを慎重に攀じり草付きを登り滝横の樹林帯を登ると滝の上である。ここからザイルを流し懸垂下降して次会の為にハーケンを数本打とうかと思ったが先を急ぐことにした。

滝上部からはうって変わって勾配もなだらかで小滝が10個ほど連なり楽しめる。少し行くと二俣になっていて左の2段15mの滝を攀じっていく、爽快そのものである。ほどなく進むと8mの直瀑、ここまででいささか汗もかいてきたので本流を直登するがさすがにメット越しに直水を受けると息もしにくく緊張物であった、登り着くと早速に後続者をロープビレーでエスケープする。

少し行くと谷は2つに分かれている・・・「両俣の滝」である。右の滝の右俣を巻くと簡単そうで難儀するナメ滝に出くわし度胸と技量が試される。そこを過ぎると溶岩のような凸凹の5mの滝に出くわすがこれがまた曲者でなかなかすんなりとは登られない。続いて板を重ねたような3mの滝であるが完全にカブっていて右の草付きを巻くが木の枝を掴みながらのアクロバットでスリル満点で楽しめる。気が付くと水量も幾分か少なくなってきて100mほどの幾段にもなったナメ滝が向かえてくれる。四つ足もどきで攀じるが掛かりの無い足裏を信じて攀じるのはなかなか勇氣がいるものである。

だんだんと水量も減りドロドロになりながらもなんとか支尾根にたどり着く、さぁここからが猛烈なチシマ笹のヤブコギの始まりである、しかし50cmほどに成長したスズコを探りながら両手でかき分けて進んで行くと登山道にでる。登山道で着替えを済まし大久保方面へと下山して行く途中でワラビ・ウド・ワサビを収穫して車にたどり着く頃にはものすごい夕立で今の帰路の空が真っ黒になり稲妻が見事であった。